

先端医療と先進環境が融合するまち

～ 吹田操車場跡地まちづくり ～

ecomedical city

エコメディカルシティ構想

～ 緑と水につつまれた健康・教育創生拠点 ～



吹田市

エコメディカルシティ構想（素案）

～緑と水につつまれた健康・教育創生拠点～

吹田操車場跡地は、東海道軸線上の京都、大阪、神戸の重心点に位置し、沿線人口が1,000万人を超えるわが国有数の人口集中地域であり、新大阪駅、吹田インターチェンジ、大阪/関西国際空港等いずれの交通拠点へも梅田と同等ないしはそれ以上の交通利便性に恵まれています。

市域には、国立循環器病センターと大阪大学医学部附属病院や、バイオ研究施設、医療機関、大学など高度な機能が集積しており、これらと連携したハイテク・バイオ・医療機器開発産業区クラスターの形成が期待されます。東部拠点では、市民に近い場所でメディカルイノベーションが生まれ、その成果を世界に発信することを目指しています。



非核平和都市宣言(抜粋)

吹田市は日本国憲法にうたわれている平和の理念を貴重に、市民の健康で文化的な生活の向上をめざし“すこやかで心ふれあう文化のまち”づくりをすすめており、平和なくしては、その実現はありえない。

よって、吹田市は、平和を希求する市民の総意のもとに、わが国の非核三原則が完全に実施されることを願うとともに、核兵器の廃絶を訴え、ここに非核平和都市であることを宣言する。

昭和58年8月1日 吹田市



健康づくり都市宣言

健康は、心ゆたかで活力に道充実した生活を営むための最も重要な基礎をなす市民共通の強いねがいであり、本市がめざす“すこやかで心ふれあう文化のまち”づくりの基本理念でもある。

本市は、この理念達成のため、市民の理解と参加を得て、健康づくり都市の実現に向けてとりくむことをここに宣言する。

昭和58年10月11日 吹田市



安心安全の都市づくり宣言(抜粋)

安心してくらすことのできる安全なまち、いつまでも誇りをもって住み続けたいと思えるまちは市民みんなの願いです。

こうした思いをもとに、吹田市は、市民一人ひとりのつながりの輪を広げ、市の将来像である“人が輝き、感動あふれる美しい都市すいた”を目指し、市民、企業、行政が力をあわせて「安心安全の都市づくり」に取り組むことをここに宣言します。

平成20年3月14日 吹田市

■医療健康創生ゾーン

エコメディカルシティを実現させる環境健康創生都市の創出
＜導入機能誘導方針＞

教育文化創生エリア

未病健康教育施設
(予防医学・医療教育施設、医学教育施設、ロボティクス検診センター)

先端医療エリア

未来医療病院
(最先端診断センター、高度周産期・小児医療センター、再生医療センター)
環境医療関連施設
(医療産業施設、医療従事者向けトレーニングセンター)

■緑のふれあい交流創生ゾーンⅡ

緑を中心とした市民の生活交流空間
＜導入機能誘導方針＞

- ・エコメディカルを基本とした自然空間づくり
- ・市民が身近に緑や水と親しむことができる施設
- ・「緑と水につつまれた」というコンセプトを具体化する機能

■都市型居住ゾーンⅡ

駅近接の利便性を活かした都市型居住空間
＜導入機能誘導方針＞

- ・緑豊かな都市型居住施設の導入
- ・育児・福祉などの生活支援施設の導入
- ・暮らしを支える生活利便施設の導入

○水に浮かぶ都市の創出

計画地全体をつらぬくせせらぎ、ため池を創出する

■緑のふれあい交流創生ゾーンⅠ

新たに生み出すまとまった緑の空間
＜導入機能誘導方針＞

- ・エコメディカルを基本とした自然空間づくり
- ・市民が身近に緑や水と親しむことができる施設
- ・体験農園や大規模なピオトープ、水生植物園

○緑の遊歩道

- ・豊かでボリューム感のある緑の連続空間
- ・楽しみながら距離を感じさせない健康増進空間
- ・まちの持つコンセプトを周辺地域に発信する

□正雀下水処理場ほか

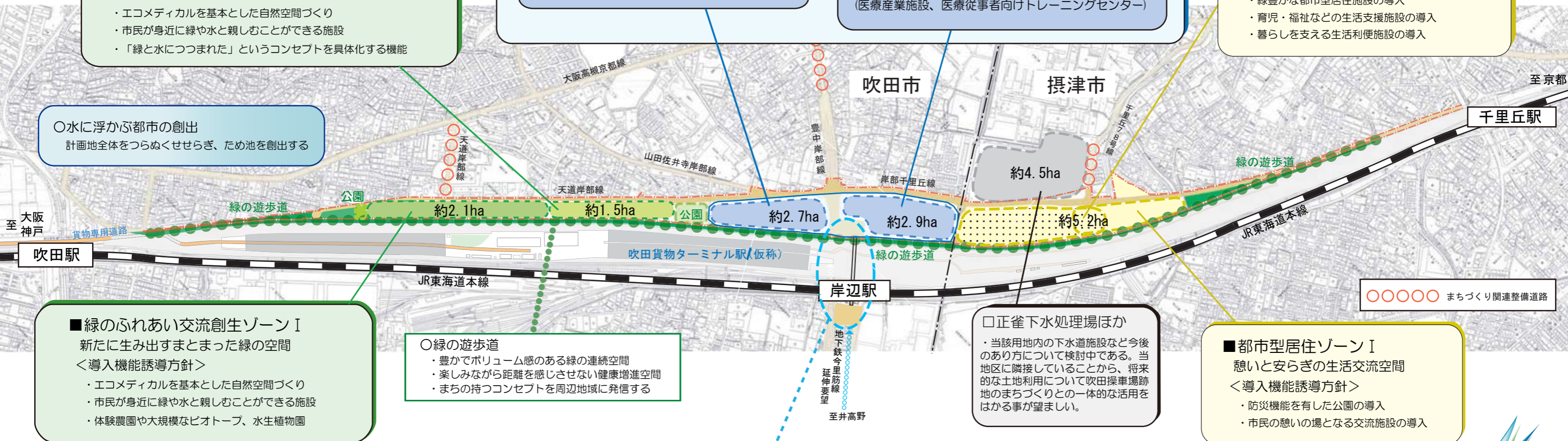
・当該用地内の下水道施設など今後のあり方について検討中である。当地区に隣接していることから、将来的な土地利用について吹田操車場跡地のまちづくりとの一体的な活用をはかる事が望ましい。

○JR岸辺駅前の整備

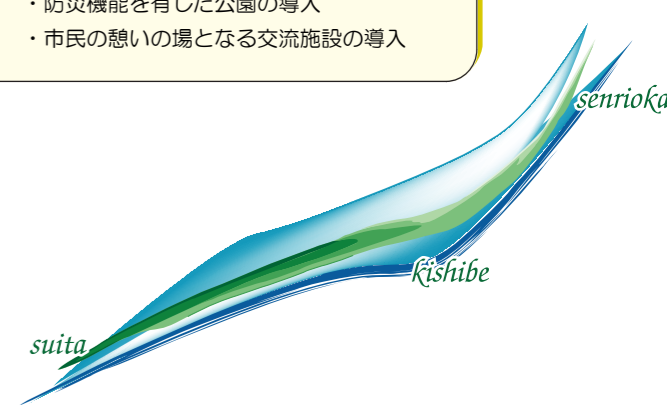
- ・まちの入口となる南・北駅前広場の整備
- ・まちのイメージを表現する駅周辺部の景観形成
- ・緑のネットワークの中心となる緑豊かな空間整備
- ・JR岸辺駅の橋上化と南北自由通路の整備

＜新たな“環境都市”創出の方針＞

- ・環境と経済の共生・統合を実現
- ・地域から脱温暖化社会を具体化
- ・長く連続した用地形状を活かすアイデア
- ・自然の再生を基本に都市をデザイン
- ・エリアを連ねるせせらぎと水辺の創出
- ・群景観としても質の高いまちづくり



○ ○ ○ ○ ○ まちづくり関連整備道路



エコメディカルシティ構想

吹田市

1.はじめに

東部拠点*においては、全国に誇るべき市内の高度医療機関と連携し、メディカルな機能と、最先端の環境性を持つエコロジカルな機能が融合した「エコメディカル」な都市づくりに取り組み、ここ吹田から世界に羽ばたく「環境健康創生都市」の創出をめざす。東部拠点をリーディングモデルとした環境健康創生都市づくり構想を「エコメディカルシティ構想」として策定する。

東部拠点：吹田市の東部に位置する吹田操車場跡地の約15haにおいて、新たなまちづくりに取り組んでいる。2010年度末のまちびらきを予定

2. 立地特性

東部拠点は、東海道軸線上の京都、大阪、神戸の重心点に位置し、沿線人口が1,000万人を超えるわが国有数の人口集中地域に位置する。新大阪駅、吹田インターチェンジ、大阪/関西国際空港等いずれの交通拠点へも梅田と同等ないしはそれ以上の交通利便性に恵まれている。

市域には、わが国を代表する高度医療機関・研究機関である国立循環器病センターと大阪大学医学部附属病院や、バイオ研究施設、医療機関、大学が集積している。

このような後背地に集積する地域財と交通アクセスの優位性によって、東部拠点には、阪大病院などの先端医療施設群と連携した高度診断医療施設の設置により、先進医療拠点の連携によるトランスレーショナルリサーチ*機能の実現のみならず、これを核としたハイテク・バイオ・医療機器開発産業クラスターによるメディカルイノベーション*が、市民に近い場所で実現できるという他地域にはない立地特性を有している。

トランスレーショナルリサーチ：新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくまでの一連の研究過程

メディカルイノベーション：トランスレーショナルリサーチの成果を、医療や産業にできるだけ早く役立てること

3. エコメディカル拠点の創生

温室効果ガスの抑制への取り組みは、すべての社会構成主体に向けられた喫緊の課題となっており、これから取り組むまちづくりにおいては低炭素社会の実現という視点を持たないデザインはあり得ない。

それは医療分野においても同じで、施設運営、医療、未病対策、リハビリなど、あらゆる領域で環境要素とのマッチングが求められる。

施設のデザインにおいては、太陽光などの新エネルギーの活用、雨水利用、緑化及び水辺の創生、エネルギーマネージメントなど、地球温暖化やヒートアイランド対策に対して低炭素あるいは脱炭素社会を実現するためのゼロエミッション*モデルを新たな医療施設において実現したい。

医療の領域においては、先端的医療研究成果を社会に還元するための医工連携や産学連携によるトランスレーショナルな取組が医療の産業化を推進し、将来、患者自身による先端的医療の選択*という豊かで多様な医療環境の実現につながることを期待される。

また、医療に対する今日的な要請におけるもうひとつの側面は、先端的医療に対する未病対策、あるいは予防医学の分野の拡充である。大気、水、緑あるいは食物など人を取り巻く環境を整えることによって、体内環境を整え、自然治癒力や免疫力を高めるという考え方は、環境先進性と医療・健康との密接な関係に着目したもので、エコメディカルの理念に沿ったものである。(例:エコセラピー*)

環境と医療との融合を中心テーマとしてまちづくりを進めるとするエコメディカルシティ構想は、吹田市が未来の市民をも含めた社会的要請に正面から応え、21世紀の新たなまちづくりをする解決策のひとつとして提唱するものである。

4. 環境先進性

東部拠点のまちづくりの方向性は「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の創出である。「緑と水につつまれた」という自然生態系に配慮する側面と、ゼロエミッションをめざす側面の両面における環境先進性を、千里ニュータウン*をはじめ市内全域のまちづくりのモデルとして脱温暖化社会をめざす。

その実現に向けて、地区計画などの都市計画手法及び環境先進まちづくりガイドライン*を定めるが、これが実効性を持つためには行政と市民の協働による取組が必要である。なお、ガイドライン等は地域再生計画で検討される「(仮称)東部拠点環境先進モデルに関するガイドライン」を参照し作成する。

ゼロエミッション: エミッションとは排出を意味し、狭義には廃棄物を指すが、ここではCO₂や大気/水質汚染物質なども含めた環境負荷物質を可能な限りゼロに近づけることを意味している

医療の選択: 現在の保険医療制度では認められていない混合診療について、特に高度先進医療のあり方についての議論が交わされている

エコセラピー: 森林だけではなく、温泉や川などの自然資源や、伝統芸能や文化芸術や伝統料理など地域生活まで含めた、「地域資源」=「エコ」を活用して、より総合的に健康や癒しの効果をあげるという考え方

千里ニュータウン: まちびらき以来50年近くを経過し、わが国のニュータウン再生の先行事例として注目されている

環境先進まちづくりガイドライン: 地域再生計画の推進組織である環境再生推進会議において策定予定の指針(同会議は環境省、国土交通省、経済産業省、大阪府等とのプロジェクトチーム)

5. 各ゾーンの整備方向

(1) 医療健康創生ゾーン、教育文化創生ゾーン

先端的な医療の研究成果が社会に還元され、最終的に国民福祉に寄与しなければならないという社会の要請に応えるため、その成果をトランスレーションする仕組みが不可欠となる。「最先端の医療を市民に」とのコンセプトのもと、医療健康創生ゾーンに未来医療開発拠点「エコメディカルプラネット」を創出する。

ここでは、「生活環境の改善による疾病予防から治療まで」という未来医療の究極のコンセプトのもと、健康、環境と教育の面から未来医療を普及し、知的財産をもとにわが国の医療産業を発展させる拠点として、惑星(プラネット)をイメージして3つの機能を配置する。

また、次世代育成をはかるために、研究者の交流の場、あるいは介護体験等医療への理解を深める場を提供する。

分子イメージング:生体内での分子プロセスの可視化に関する基礎的・臨床的研究、および開発された可視化手法を利用する応用研究を示し、臨床画像診断学や基礎生命科学におけるイメージング研究をさす。

未来医療病院

最先端診断センター

未病の段階から疾病を発見して、予防・早期治療による健康寿命伸延を図るべく、大阪大学や国立循環器病センター、神戸先端医療センター等と連携して、スーパー医療特区による脳・心・癌の分子イメージング*を駆使した最先端診断センター設置を誘導する

iPS細胞:体細胞に遺伝子操作を加えることで、万能性のあるES細胞のようにいろいろな細胞に成長できる能力を持たせた細胞。山中伸弥京都大教授らが2006年、世界で初めてマウスの皮膚細胞から作製。再生医療研究を加速させる成果として注目されている。

高度周産期・小児医療センター

東海道軸線上という立地を生かし近隣府県をカバーする高度周産期・小児治療センターの設置を誘導する。また、こどもの身体と精神の発達に関する知見を高め治療に取り組む、こどものこころセンターの設置も視野に入れて整備を行う。

iPSによる再生医療センター

京都大学・大阪大学連携によるiPS*細胞の臨床応用拠点として、心臓等を中心とするiPSによる再生医療センター設置を誘導する。

未病健康教育施設

予防医学・医療教育施設

医療健康創生ゾーンの各施設と連携しつつ市民に生命の仕組みや新しい医学の取組を学んでもらい、医療への親しみを育む、生活環境教育・食育を行う。

東洋医学・漢方研究施設

西洋医学のみならず、伝統的な医学領域を科学的に研究し、医学的な根拠に基づいた知見を疾病の治療や治癒、予防に応用することをめざす。

医学教育施設

大阪大学第2吹田キャンパス・看護大学・医療政策大学、社会医学先行による社会人向け教育を行い、将来的には大阪大学公衆衛生大学院*設置を誘導する

ロボティクス検診センター

未病対策の一環として24時間稼働の自動健康診断システムを備えたコンビニエンス・クリニック*設置を誘導する

環境医療開発施設

医療産業化のための治験・開発施設

生活環境の向上を目指し、国立循環器病センター医療クラスター等との連携により、器開発や医薬品・医療機器から健康機器・健康食品・アンチエイジング技術まで「生活習慣病予防から治療まで」の一貫した開発施設設置を誘導する

医療従事者向けトレーニングセンター

人工心肺、補助人工心臓などの医療機器デバイス開発企業による医療従事者向けトレーニングや、産官学患連携を推進する患者参加型の医療機器・健康機器開発にむけた議論の場を持つセンター設置を誘導する

大阪大学公衆衛生大学院：大学院医学系研究科医科学修士社会人コース 2007 開講。疫学、生物統計学、環境衛生学、行動科学・健康教育学、医療管理学を少なくとも含むことを公衆衛生大学院の認定基準。医師、歯科医師、薬剤師、看護師などの医療職に限らず、法律、経営、メディア、心理など多様な職種から構成される

コンビニエンス・クリニック：資格をもった看護師が、スーパーマーケット内で、かぜや中耳炎、膀胱炎などのありふれた病気の診察や薬の処方を行う RediClinic が米国で流行っている。複雑な検査が必要な病気、継続的な治療が必要な病気は扱わない。簡単な病気ばかりなので、受付から診察終了まで15分。スーパーの中には薬局があり、市販薬のアドバイスを受けることもできる。夜間も週末も開いている、まさにコンビニである。

(2) 緑のふれあい交流創生ゾーンⅠ、Ⅱ

人を取り巻く環境が人体の内的治癒力や免疫力に影響を及ぼすことに着目し、外部環境を整えることで内部環境を正常化していくというエコセラピーの考え方は、東部拠点のまちづくりにおける環境健康創生の理念を具体化するものだと言える。

両ゾーンには、新たにまとまった緑の空間を生み出し、緑を中心とした市民の生活交流空間を生み出す。特に緑のふれあい交流創生ゾーンⅠは、水や緑に直接触れることができることで、もっとも効果的に心身の癒しが期待できるゾーンとする方針である。

体験農園

都市に暮らす市民にとって身近な場所にある自然は貴重である。里山やまとまった緑地を創出し、日常的に緑に触れ合い育て収穫するという喜びを得ることができる体験農園の設置を検討する。

園芸療法*エリア

植物を育む行為を通じて病気の予防や治療につなげることを目指し、エコメディカルプラネットと連携した、自然活用型、市民参加型、社会変革型医療の構築と場の創造を目指す。

園芸療法：植物の世話を通じて病気の予防や治療につなげる療法で、金沢大学大学院医学系研究科 安川 准教授（老人看護学）により、科学的な効果（エビデンス）が確認されている。

大規模なビオトープ

学校等で小規模なビオトープを創出する取組が進んでいるが、在来水生生物を保全しつつも、子ども達の中に入って遊べるタフな大規模ビオトープを設けることで、都市に水辺空間を創出する。

水生植物園

豊かな水面を創出し、そこに繁茂する多様な水生植物や水生動物、野鳥を保全するとともに、そこを訪れる人々にとって癒しの空間となるよう、ビオトープの一環として水生植物の保全エリアを設定する。

吹田操車場跡地におけるエコメディカルエリア構想

(大阪府吹田市)

エコメディカルエリアの創出

吹田操車場跡地(23ha)のまちづくり
緑と水につつまれた健康・教育創生拠点
医療健康創生ゾーン 教育文化創生ゾーン

高度医療研究資源

周辺への高度医療研究教育機関の集積
国立循環器病センター、大阪大学医学部
大阪大学、国立民族学博物館、関西大学他

産業立地特性

未来医療 メディカルIT など
医療産業クラスターの形成

環境世界都市すいた

吹田操車場跡地と
千里ニュータウンの再生で
環境先進都市を実現する決意

環境先進性

環境基本計画、アセス条例
など先進的な環境政策

交通利便性

東海道軸線上に位置
吹田インター
大阪、京都、神戸
関西3空港に近接

行政力

まちづくりの完成度
生活利便性
福祉教育文化力
市のブランド力

市民力

地域自治意識
環境意識
↑
コミュニティ NPO

世界に誇る環境健康創生都市

資料編

EcoMedical Planet

- 環境にやさしい医療産業都市 -

- 基本テーマは「環境・健康・医療」の3ゾーン(3Planet)
- 心臓・脳・癌に特化して、立地を生かした世界最高水準の診断と高度医療を実践する病院
- 未病健康・教育のためのテーマパーク・医学教育施設
- 環境(エコ)＋医療(メデイカル)を融合し、地球環境、生活環境、医療環境の向上を目指した次世代生活環境医療開発拠点を設置
- 立地を生かし阪大病院、国立循環器病センター、京都、神戸など周辺機関と連携
- 基礎開発から臨床へ直結させることでバイオ企業誘致を促進

吹田市民病院

地域に密着した初期急性期医療・療養型・リハビリ型

大阪大学医学部附属病院

国立循環器病センター

・大阪大学
・関西大学等
・先端医療振興財団
・大阪府彩都
・京都大学

経産省・厚労省・環境省
国土交通省との連携

Planet1: 未来医療病院

—最先端の医療を地域から世界に—

世界最先端・医療特区病院

Planet2: 未病健康教育施設

—健康維持・疾病予防—

大人から子供まで楽しみ学べる
メディカルテーマパーク

Planet3: 環境医療開発施設

—生活環境医療の開発から治療まで—

立地を生かしたバイオ企業誘致
新道修町構想

吹田市を医療産業都市に
すなわち日本のピッツバーグに

EcoMedical Planet



Planet 1: 未来医療病院

—世界最先端の診断と先進医療を地域から世界に—

未来医療推進・実践

- 医療特区による脳・心・癌の未来医療
生活習慣病に起因する重症疾患の世界最先端診断治療
- 高度周産期小児医療センター
立地を生かし近隣府県をカバーする高度周産期小児治療
- iPS臨床センター
心臓を中心としたiPSによる再生医療センター

Planet 3: 環境医療開発施設

—生活環境医療の開発から治療まで—

環境企業立地促進

- エコ病院・医療システム
CO2排出を抑えた病院機能・医療システムの研究開発
- 生活環境医療研究プラットフォーム
食の安全・健康食品・健康機器開発・低侵襲性創薬・医療機器開発・環境と医療・アンチエイジング技術開発
- 安心・安全な医療環境
医療従事者向け医療機器開発・利用トレーニングセンター

Planet 2: 未病健康教育施設

—健康維持・疾病予防—

予防医学・医療教育施設誘致

- 24時間ロボティクス健診センター
質の高い自動健康診断システムの開発提供
- 医療への市民参加・市民リエゾン(医療テーマパーク)
患者参加型研究開発・次世代育成・医療への親しみ理解を深める
- 医学教育施設
大阪大学第2吹田キャンパス・看護大学・医療政策大学

エコメディカルフラネット OSAKA 計画

近年わが国は、医療費問題から保険制度や医師偏在、地域医療破綻等システムエラーによる未曾有の医療崩壊の危機にさらされ、さらに全地球的環境問題も国民健康福祉に大きく影響しつつあり、今後の国民生活が脅威にさらされているといっても過言でない。

吹田市は、京都大阪神戸の3都の重心点に位置し、東海道線・新幹線・名神・伊丹空港等の交通至便地にあり、人口35万人の大阪のベッドタウンとして、万博を契機に整備発展を遂げてきた。さらに、吹田市は、国立循環器病センター&大阪大学という2大国立医療機関・研究機関や関西大学等の高等教育機関を有し、これらを基盤としてハイテク・バイオ・医療機器開発研究の街として発展が期待される。ちなみに、心臓移植の日本の6割が吹田市で行われているということで、吹田は移植の街でもある。一方、かつて製鉄産業で一斉風靡したアメリカのピッツバーグは、人口32万人の中小都市でありながら、ピッツバーグ大学メデイカルセンターを中心として移植から再生医療へと、今やハイテクバイオ産業の街として生まれ変わっており、全米一の住みやすい街にノミネートされている。ピッツバーグ市と同様の背景を持つ吹田市は、医療やバイオに関して同等以上の発展を遂げうるポテンシャルを有すると考えられる。

ところで、21世紀の医療を支える最も重要な医科学研究の社会的要請は、アカデミアによる研究成果が社会に還元され最終的に国民福祉に寄与するという点にある。しかし、先端的医療成果が医療の選択肢として普及することは、とくに本邦においてこれまで困難であり、従って国産医学研究の国民福祉への貢献は低かった。この解決策として、生命科学研究、医学的研究の成果（シーズ）のみならず、広く学際領域の知見シーズを連携融合し、融合の成果を産学連携により産業化するトランスレーションが不可欠である。さらに、現状の地球環境や教育問題の悪化を考えると、世界最高レベルのGNP, GDPを維持してきた長寿大国としてのわが国に課せられた、国民福祉および環境政策に対する要求はきわめて高い。

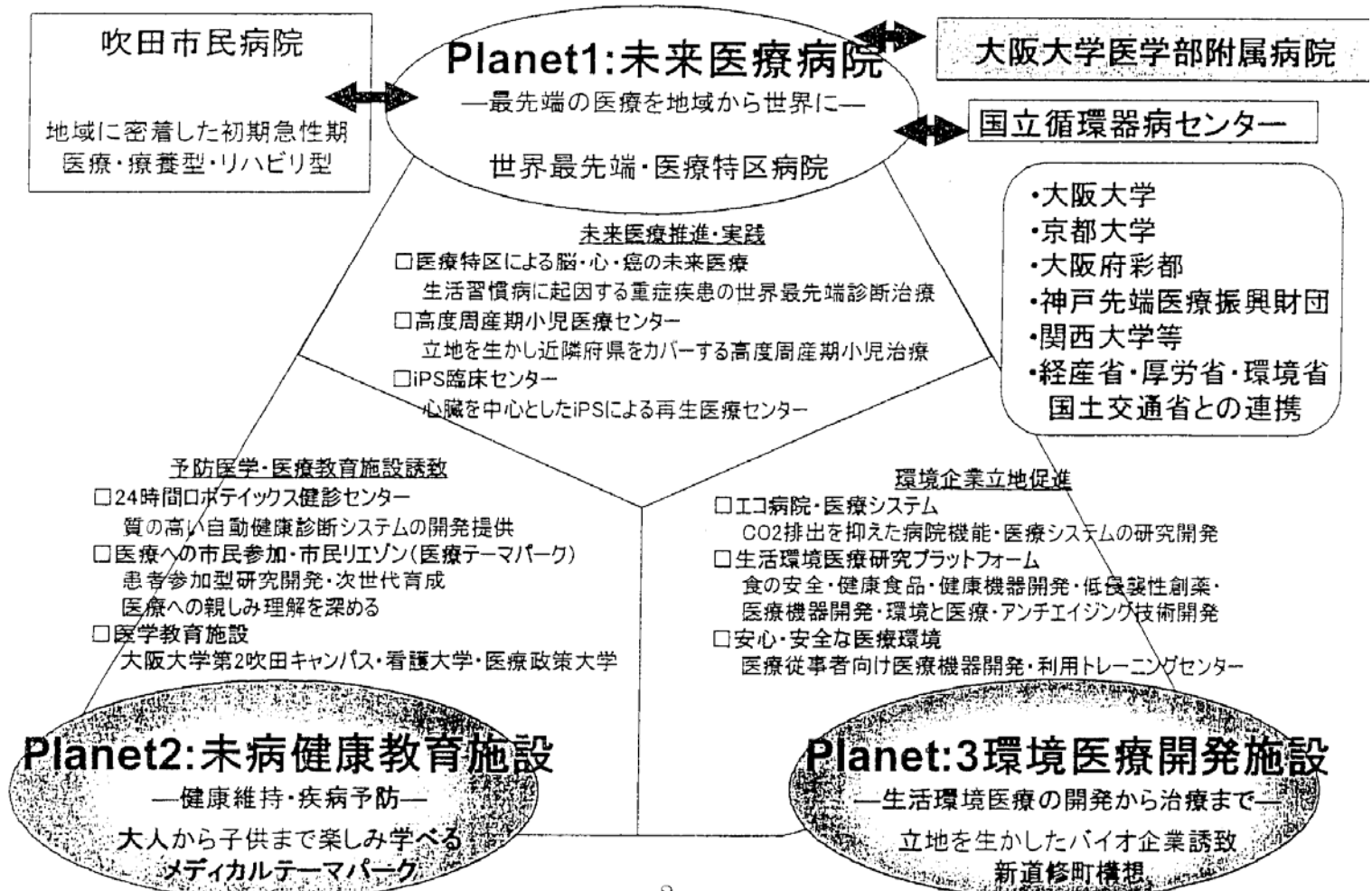
大阪大学では、学際領域連携融合研究推進を計画し次世代医療開発拠点の確

立を目指し、医学部附属病院に未来医療センターを開設し、新規医療開発において急速に成果を上げてきている。これらのノウハウを生かすことで、大阪大学発・わが国発の医療産業が展開可能となると考えられる。そこでこれまでの未来医療センターで開発されたいわゆる未来医療を具体化させた新しい拠点は、医学部のみならず工学系・基礎工学系や薬学系・歯学系生命機能系等の全学的シーズを具現化推進し、医工連携や産学連携による医療産業化に拍車をかけ、最終的に、未来医療の臨床応用から医療産業化に向けた、いわゆるトランスレーショナルリサーチを支援し完遂することが可能となろう。

我々がここに提案する環境と医療との融合を中心テーマとする未来医療開発拠点「EcoMedical Planet Osaka」は、この社会的要請に正面から応えるべく健康、環境と教育の面から未来医療を発展普及させ、知的財産をもとにわが国の医療産業を発展させる拠点である。この拠点到存在する惑星をイメージして、各研究ゾーンをPlanetと称する。

この拠点は3部門から構成される。その構成を以下に示す。

EcoMedical Planet 計画



Planet1: 未来医療病院(世界最先端・医療特区病院)

—世界最先端の診断と先進医療を地域から世界に—

「最先端の医療を市民に」とのコンセプトのもと、大阪大学発の橋渡し研究の成果として、脳血管疾患・心疾患及び癌など生活習慣に起因する重症疾患治療のための未来医療病院を設置する。未病の段階から疾病を発見して予防・早期治療による健康寿命伸延をはかるべく大阪大学や国立循環器病センター、神戸先端医療センター等と連携して、今回政府から提案されているスーパー医療特区による脳・心・癌の分子イメージングを駆使した世界最先端診断センターおよび先進治療病院を構築する。さらに、社会的問題となっている周産期医療に対し高度周産期小児医療センター（こどものこころセンター）を設置し、立地を生かし近隣府県をカバーする高度周産期小児治療を向上させる。さらに京都大学・大阪大学連携によるiPSの臨床応用拠点としてiPS臨床センターを設置し、世界に先駆けた心臓等を中心とするiPSによる再生医療センターを構築する。これらは、北大阪屈指のベッタウンとしての特徴立地を十分に生かす臨床拠点であり、長期にわたる日本の医療福祉政策の実践的リーディングモデルとなる。

Planet2: 未病健康教育施設(大人から子供まで楽しみ学べるメディカルテーマパーク)

—健康維持・疾病予防—

「生活環境の改善による疾病予防から治療まで」という未来医療の究極的コンセプトのもと、予防医学・医療教育施設を誘致する。主には医療への市民参加・市民リエゾンのための「大人から子供まで楽しみ学べるメディカルテーマパーク」をコンセプトとしたメディカルプラネットを設置し、患者参加型研究開発・次世代育成をはかり、医療への親しみ理解を深める。健康ゾーン・研究開発ゾーンと連携しつつ生徒・児童には生命のしくみや新しい医学の取り組みを学んでもらい医療への親しみをはぐくみ、生活環境教育・食育を行う。市民には研究者と交流の場あるいは介護体験等医療への理解を深める場を提供、加えて患者参加型の医療機器・健康機器開発にむけた議論の場（産官学患連携の推進）を提供する。一方、医学教育施設として、大阪大学第2吹田キャンパス・

看護大学・医療政策大学を誘致し、広く知を発信する場として社会医学専攻による社会人向け教育を行い、将来的には大阪大学公衆衛生大学院の設置等をも目指す。

さらに、未病対策の一環として24時間ロボテックス健診センターを設置し質の高い自動健康診断システムの開発提供（コンビニククリニック）する。

Planet3: 環境医療開発施設（新道修町構想）

—生活環境医療の開発から治療まで—

医療と社会のサステナビリティを実現するため、エコロジー（環境）を優先した未来医療研究開発ゾーンを構築する。まず、地球環境保護の観点からCO₂排出を抑えた病院機能・医療システムの研究開発を行う。さらに、生活環境の向上を目指し、国立循環器病センター医療クラスターと連携して、医療機器開発や、医薬品・医療機器から健康機器・健康食品・アンチエイジング技術まで「生活習慣病予防から治療まで」の一貫した研究開発を行う。そして、患者の立場にたった安心・安全な医療環境を目指し、医療機器デバイス開発企業が必要とする医療従事者向けトレーニングセンターを設置し、医療機器開発・利用トレーニングを行う。

これら研究開発を、良い立地を生かして企業により有効活用することで、生活環境医療研究のプラットフォームを目指す。

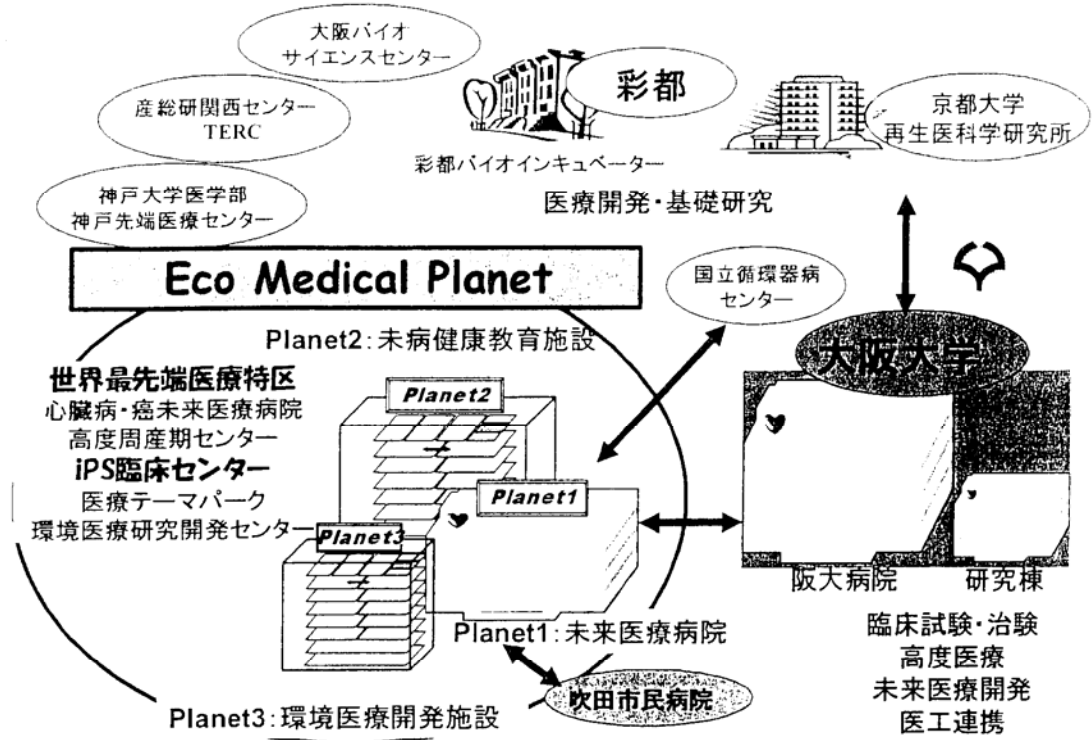
立地の良い吹田市操車場跡地利用計画

- 吹田を環境にやさしい医療産業都市に
- 基本テーマは「環境・健康・医療」
- 教育・病院・研究の3ゾーン
- 心臓・脳・癌に特化して、立地を生かした世界最高水準の診断と高度先進医療を実践する(特区・自由混合診療)病院
- 心臓中心にiPSを再生医療に応用する拠点
- 未病健康・教育のためのテーマパーク・医学教育施設
- 環境(エコ)+医療(メデイカル)を融合した次世代生活環境医療であるエコメデイカル開発拠点を設置し、立地を生かした開発から臨床に直結するバイオ企業誘致を促進



**吹田市を医療産業都市に
すなわち日本のピッツバーグに**

EcoMedical Planetと周囲のバイオ関連施設



以上のように、大阪大学大学院医学系研究科がここに提案する「エコメディカルプラネット OSAKA」は、健康と環境に関する社会的要請に正面から応えるべく3つのゾーン (Planet) から構成されるメディカルセンターで、未来医療を健康・研究開発・教育の面から普及発展に資するセンターである。

広域図位置関係

スナグで交差のさや飛込車



- JR
- 阪急
- 京阪
- 阪神
- モノレール

岸辺駅からの交通アクセス

海関番立図表

[鉄道]



[自動車]



大阪エリアから

- 梅田駅から約34分(約11.1km)
- 名神高速道路、吹田ICから約18分(約5.4km)
- 近畿自動車道・中国自動車道、吹田JCTから約19分(約6.2km)
- 大阪国際空港から約40分(約13.9km)
中国自動車道利用の場合、約35分(約16.7km)
- 関西国際空港から約2時間13分(約60.3km)
関西空港自動車道・阪和自動車道・近畿自動車道利用の場合、約1時間23分(約81.7km)

神戸エリアから

- 三ノ宮駅から約1時間43分(約38.8km)
名神高速道路利用の場合、約54分(約43.5km)

京都エリアから

- 京都駅から約1時間25分(約35.3km)
名神高速道路利用の場合、約52分(約43.5km)

滋賀エリアから

- 大津駅から約1時間54分(約48.7km)
名神高速道路利用の場合、約59分(約45.7km)

吹田操車場跡地を取り巻く 主要なプロジェクト

第2名神高速道路
(計画)

一般国道423号延伸
(箕面有料道路)

国立循環器病センター
千里金庫大学
大産大学
大産大学医学部附属病院

国立民族学博物館
大阪バイオサイエンス研究所

南千田住まちづくり

正雀下水処理場
(吹田市)

吹田市

吹田操車場跡地

摂津市



南吹田住まちづくり

大阪学院大学

大阪駅北地区
(梅田北ヤード)

凡例	
	主要なプロジェクト
	鉄道線
	高速道路
	一般国道
	河川
	公園・緑地
	大学・病院



東部拠点のまちづくり事業予定

	平成20年度 (2008年)				平成21年度 (2009年)				平成22年度 (2010年)				平成23年度 (2011年)				平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度		
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3						
都市計画手続き	●計画決定 (区画整理、道路) ●関係機関協議				●市都計審 ●計画決定 (用途、地区計画等)																	
事業者決定	アイデア募集コンペ	→			事業者決定																	
	事業コンペ	入選者決定	←関係者間調整		←実施準備		←募集～審査		←保留地譲渡													
まちづくり 検討組織	計画委員会	-----●-----																				
	促進協議会	-----●-----																				
	市民フォーラム	-----●-----																				
地域再生計画	-----●-----																					
まちづくり計画(基本計画)	●案作成 策定								まちびらき													
まちびらき 関連事業	北側駅前広場	調査・設計等 (一部関連工事)			建設工事				供用開始													
	南側駅前広場	調査・設計等 (一部関連工事)			建設工事				供用開始													
	岸辺駅橋上化	調査・設計等 (一部関連工事)			建設工事				供用開始													
	南北自由通路	調査・設計等 (一部関連工事)			建設工事				供用開始													
	緑の遊歩道	調査・設計等 (一部関連工事)			建設工事				供用開始													
医療健康創生ゾーン				設計(事業者)				建設工事														
教育文化創生ゾーン				設計(事業者)				建設工事														
緑のふれあい交流創生ゾーンⅡ				設計(事業者)				建設工事														
緑のふれあい交流創生ゾーンⅠ				設計(事業者)				建設工事														
土地区画整理事業	●事業認可			●仮換地指定				●上り貨物線廃止 撤去工事														
調査・設計	●			●				●														
工事				＜保留地ゾーン＞				造成工事(第1期)駅広				造成、都計道路(東西道路)工事(第2期)										
				＜保留地ゾーン以外＞				造成、都計道路(東西道路)、供給施設工事(ガス、電気、上下水道)														
都市基盤 施設整備	●天道岸部線整備 (区画整理区域外)			●測量・物件調査・実施設計				●用地買収				●工事										
	●			●				●				●										

周辺に集積する社会資源①

国立循環器病センター

厚生労働省直轄の6つの国立高度専門医療センターの一つ。循環器病に関し、診断及び治療、調査及び研究並びに技術者の研修を行い、海外研究者や患者も多い。循環器を専門とする日本最先端の医療機関であると同時に、循環器病を専門とする医学研究機関でもある。

大学付属病院以外で特定機能病院として認められているのは、この国立循環器病センターと国立がんセンター、大阪府立成人病センターのみ。



大阪大学

1931（昭和6）年、医学部と理学部の2学部で、わが国6番目の帝国大学として創設された。

1724（享保9）年に設立された懐徳堂の精神を受け継ぎ、自由な学問的気風や先見性、時代の要請に応えるという熱意を精神的な柱としている。93年には医学部附属病院が大阪市中之島から近郊の吹田キャンパスに移転を完了、これによって阪大は吹田・豊中両キャンパスの統合が完了した。

2007年には大阪外国語大学と統合。11学部・10研究科、学生数は約2万4千人。



大阪学院大学

前身は、1940年（昭和15年）に初代校長の白井種雄が、企業会計人の育成という当時としては画期的な目標のもとに創設した関西経理専門学校。このような経緯から大阪学院大学は、ビジネス社会を担う実践的な人材育成を重視した教育を実施している。

これまでに培われた文化的、コンサバティブで大らかな学風は、今も根強く残っている。



大阪大学医学部附属病院

年間入院患者数は約33万人、年間外来患者数は60万人を超える地域の中核病院として、先進医療の開発に力を入れる。

年間手術件数は約8千件、年間予算は約230億円。リスクマネジメント、医療クオリティマネジメントではわが国トップクラスのレベルを誇り、未来医療センターの稼働等により、高度先進医療の推進を目指す。



関西大学

当時の司法省の顧問を務めていたボアソナードに学んだ有田徳一ら大阪在勤の裁判官、彼らの上司である児島惟謙、自由民権運動家である吉田一士により、1886年に開かれた関西法律学校が前身。学理と実際の一致、学技一体の学風は脈々と受け継がれている。13学部と大学院あわせて約3万人の学生を擁する関西を代表する私立大学である。



千里金蘭大学

設立は2003年、堂島高等女学校（今の大阪府立大手前高等学校）の同窓会である金蘭会が母体となって設立した女子教育に特化した大学である。「教養と豊かな人間味を兼ね備えた有為な女性人材の育成」という建学の根本精神にのっとり、「現代社会のニーズに応え、急速な社会の変化に対応できる21世紀型女性の育成」を理念とする。4学部6学科、学生数は約400人。



周辺に集積する社会資源②

国立民族学博物館

国立民族学博物館は文化人類学・民族学に関する調査・研究をおこなうとともに、その成果に基づいて、民族資料の収集・公開などの活動をおこない、これらを通して、世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人々に提供し、諸民族についての認識と理解を深めることを目的として、1974（昭和49）年に創設された。

中核的な学術研究の拠点として、国内外の大学・研究機関等の研究者が、大規模な施設・設備や学術資料等を共同で利用する大学共同利用機関として位置付けられた、博物館を持った研究機関である。



大阪バイオサイエンス研究所

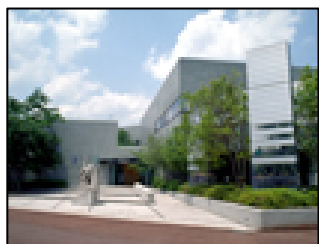
大阪バイオサイエンス研究所は、バイオサイエンスに関する優れた研究を行ない、また研究者を養成することによって、バイオサイエンスの発展を促し、科学技術の発展を目標とする事業をすすめている。

研究の主体は独創性に富んだ基礎生物学の分野での新しい問題の解明に力点が置かれおり、世界でもユニークな幾つかの研究成果が得られ、関西における研究活動の中核の一つとなっている。



大阪府立国際児童文学館

万博記念公園内にある大阪府立国際児童文学館は、児童文学等に関する総合的、国際的な研究・資料情報センターとして昭和59年（1984年）に誕生した。子どもの本と関連資料すべてを収集、整理、保存している。図書館と同一視されるが、専門的な資料館で、明治時代の和紙に印刷された本や大正時代の美しい絵雑誌などもそろふ。資料は約70万点に及び、世界的にもドイツのミュンヘン国際児童図書館と双璧と評価されている。



万博記念公園

1970年に開催された日本万国博覧会の跡地を、博覧会を記念する「緑に包まれた文化公園」として整備したもので、森の再生モデルとしても注目されている。

総敷地面積は264ヘクタールに及び、甲子園球場の約65倍の広さに相当する敷地の中に、自然文化園、日本庭園、陸上競技場などのスポーツ施設、国立民族学博物館などの文化施設を抱えている。



千里ニュータウン

わが国で初めて本格的なニュータウンとして建設された千里ニュータウンは、昭和37年（1962年）のまちびらきから45年が経過し、その間、緑が育ち、人々が暮らしを営み、様々な地域活動や市民活動が展開されるなど、まちとして大きく成長してきた。

しかし一方で、少子・高齢化の進展など様々な課題がみられるようになり、さらには、老朽化した住宅の建替えがはじまり、その動きが本格化する時期を迎えており、今ニュータウン再生に向けた第2段階のまちづくりを検討している。



若者、子ども
巻き込んで



都市生活研究所社長
のびる 幸子
篠崎 由紀子 氏
関西経済同友会常任
幹事・大阪活性化委員会
委員長・梅田北ヤード研究会
座長など歴任。

藤崎 私はこれまで、梅田北ヤードのまちづくりにかかわってききましたが、今回のまちづくりに期待するのは、第一に、「環境の世紀」と言われるこの時代に、環境のモデルタウンを作ろうというこの取り組みが、21世紀のシンボリックなプロジェクトになるのではないかと考えています。そのためにも、市長さんが自らリーダーシップを取り、民間活力を利用して成功へと導いていただきたいと思います。

第二に、これだけ利便性が高いわりに、地価が梅田北ヤードに比べると格段に安いという有利な条件のもと、経済効率一辺倒でなく、水や緑、ゆとりを取り込んだまちづくりが可能となるポテンシャルの高さです。そういった意味では将来、ここに進出を計画されている民間企業の方々にとっても、情報発信基地に大変優れた場所だと思えます。100年、200年先を見通した社大なまちづく

目に見える
魅力作ろう



大阪大学名誉教授
なるみ くみひろ
鳴海 邦碩 氏
京都大学工学部卒。
都市計画、都市環境デザインが専門、日本都市計画学会前会長。

り、環境の世紀の素晴らしいまちづくりに期待しています。

鳴海 「持続可能なまちづくり」とは、どういうものとお考えになりますか？

高橋 自然環境を通して人と人がつながり合える持続可能なまちづくりをしていく上で、基本となるのは教育です。従って、市民が参加する循環型の教育システム、長寿社会をそれぞれがステイジで実現していく教育システムを、都市機能として考えてほしいですね。医療に関しては、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を実現しつつ、多様な人たちが医療を中心に集積して発展し、それが経済活性化につながることを世界に提言していただきたいです。

新たな
北摂ブランドを



大阪国際文化協会会長
たかはし えいこ
高橋 敬子 氏
元大阪府教育委員会
委員、著書に「娘と母の
ハイデルベルク一親子
留学記」。

藤崎 全国に誇れる医療機能を核とした新たなクラスターを建設するということは、関西一円がライオンサイエンス産業界でのけん引役となり、持続可能な経済の発展につながると思います。

特に高度医療、未来医療という視点からは、国立循環器病センターや大阪大学医学部といった高度な医療・研究機関と連携することによって、医療健康創生ゾーンで素晴らしい世界に誇る事業展開が可能ではないでしょうか。

森山 1世紀前に造られた大阪府庁舎や御堂筋は、当時としてはとても大胆な発想だったと思いますが、今では高い評価を得ているように、今回のプロジェクトも緻密かつ大胆な発想で

例を見ない素晴らしいまらになるような思いがします。

高橋 シェイプで暮らしているところ、自然環境を抜きにしては本当に豊かな暮らしはできないということを感じてきました。近年、環境問題への関心が高まっていますが、一方で、地球温暖化現象を知らない日本人が3割もいるという話もあります。

そんな中、このプロジェクトが発案することはとても大きな意義があると思います。吹田市が世界環境都市宣言をだし、今夏には洞爺湖サミットが行われる時と同じくして、より具現的で実質的なものとして広がっていくには、民間や市民だけでなく、政治的な思想として市長さんにも尽力いただ

取り組みつつ、水・土・空気・自然といった環境を意識しながら進めていけば、持続可能なまちづくりにつながるのではないかと思います。

阪口 「進歩・発展」「競争・対立」「力・論理」といった近代国家の理念に対して、「循環・再生」「共存・調和」「有徳・有情」といったライフスタイルに切り替え、人間や地球、地域の健康を支える高度医療と環境先進のまち、いわば「エコメディアカル」なまちづくりにまい進していきたいです。

鳴海 持続可能とはやはり、地域や人がいきいきと暮らしており、これからもずっといきいきと活動していきけるということだと思います。そこに、その地域に進出した企業の活動や社会的活動が地球環境とうまく結び合っただけでいいことができれば、とても素晴らしい地域が生まれるような気がします。最後に、この地域のまちびらきに向けての期待を。

1923年開業 国内最大級の貨車取扱量

吹田操車場

鉄道貨物輸送の大動脈であった東海道線に1923年、大阪を通過する貨物の入れ替え作業を行う「吹田操車場」が開業。線路の総延長約150キロ、最大貨車取扱量6000両は、国内の操車場で最大級の規模を誇った。

70年代以降は自動車の大衆化や貨物輸送の合理化によって、全国の操車場で業務が減少し、吹田操車場も84年2月のダイヤ改正で操車場経由の輸送が全廃。61年間の歴史に幕を下ろした。二十数年後、その跡地を利用したまちづくりプロジェクトがスタート。「緑と水につつまれた

健康・教育創生拠点」の創出をコンセプトに、吹田市・摂津市にまたがる東西約3キロ、約27・5ヘクタールの敷地内に「緑のふれあい交流創生」「教育文化創生」「医療健康創生」「都市民間生活」の4つのゾーンを設け、持続可能で先進的な環境都市モデルとなるまちづくりを進めている。

緑と水・健康・教育を創生
持続可能な都市モデルへ

パネルディスカッション

- パネリスト
阪口 善雄氏(吹田市長)
森山 一正氏(摂津市長)
篠崎 由紀子氏(都市生活研究所社長)
高橋 敬子氏(大阪国際文化協会会長)
- コーディネーター
鳴海 邦碩氏(大阪大学名誉教授)



JR吹田、岸辺、千里丘の3駅、約3キロに広がる吹田操車場跡地

鉄道貨物輸送によって、日本の近代国家の建設や産業の振興に貢献した吹田操車場がその役割を終えて二十数年。その跡地利用のプロジェクト「吹田操車場跡地まちづくり」が、吹田市や摂津市、独立行政法人都市再生機構などが中心となって進められている。2011年春のまちびらきに向け、4月7日に行政府トップや有識者らによる「持続可能な都市モデルへの挑戦」をテーマとしたシンポジウムが実施された。

「持続可能な都市モデルへの挑戦」をテーマとしたパネルディスカッションに参加する参加者

潜在能力
最大限に活用



吹田市長
さかい よしひ
阪口 善雄 氏
大阪市立大学文学部卒。吹田市議員、大阪府議を経て1995年より現職。大阪府公園・都市緑化協会会長。

鳴海 「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」を基本理念とした、吹田操車場跡地でのまちづくりについての思いをお聞かせ下さい。

阪口 水運や鉄道、千里ニュータウンと万博、そして医療と教育に恵まれた素晴らしい吹田市のポテンシャル(潜在能力)を最大限に生かしながら、環境と健康、教育というコンセプトを軸に国内外から注目されるまちづくりを目指して、市民、企業の皆さんと一緒に取り組んでいきたいです。

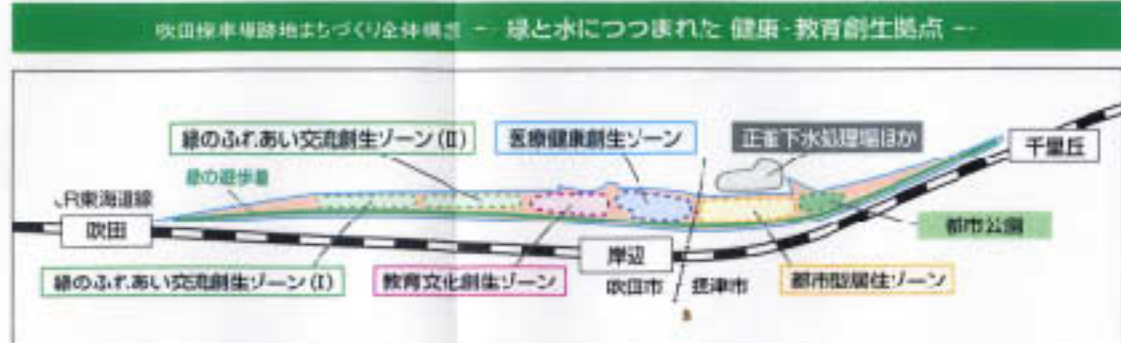
森山 摂津市は人口8万5000人という小さなまちですが、市域の60%以上が準工業地帯で、市民税、法人税ともに大阪府内、3位以内と高額なんです。

こうした北大阪を代表する中小零細企業のまち、摂津市と、日本有数の教育・文化・スポーツ・インフラに恵まれた吹田市が一緒になってまちづくりをするということ、全国的にも

中小企業の
集積生かす



摂津市長
もりやま かずまさ
森山 一正 氏
関西大学経済学部卒。摂津市議、大阪府議、同府議会議員などを経て2004年より現職。



吹田操車場跡地まちづくり全体構想 - 緑と水につつまれた健康・教育創生拠点 -

日本の発展とともに誕生した吹田操車場(創業当時)

篠崎 グローバルなビジネス活動やコミュニティビジネス、ソーシャルワークといった多様な活動を組み込みつつ、若者や子どもたち、次世代の人たちを巻き込んだまちづくりを期待します。

高橋 新たなライフスタイルを作り、世界に打って出ることができる「北摂ブランド」とは何かというのを考えていきたいです。

森山 市民の皆さんには、生活空間や環境、住むことへのこだわりを持っていただき、素晴らしいまちづくりへの提案をしていただきたいと思います。

阪口 国や大阪府、関連連をはじめ、医療機関とも連携しながら、関西経済の復興につながるような大きな事業として推進してまいります。

鳴海 一つの市を結ぶ「緑のくさび」となるこの新たな開発地区と、もともとあるまちが融合し、環境的にも空間的にもその魅力が目に見えるような、人を引き付けられる力のあるまちづくりに期待しています。そして、地域の人に愛され、発信力も持つような名前が付けられ、いろんな人たちが連携しながら持続可能なまちづくりを進めていくってほしいです。

市民の意見でまちづくり

UR都市機構理事・西日本支社長 福永清氏

URが吹田操車場跡地プロジェクトにかかわることになった経緯や理由についてお聞かせください。

URは吹田のような大規模用地の土地利用転換の事業について、大阪北地区(梅田北ヤード)をはじめ全国各地でまちづくりのお手伝いに携わってきました。これらでつちかっただまづくりの知識・ノウハウ等をご評価いただき、吹田・摂津両市から依頼を頂戴したのではないかと思っています。



—どんなまちにしていきたいとお考えですか。

このまちについては両市を中心とする「吹田操車場跡地まちづくり計画委員会」の中で「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」という基本コンセプトが定められています。

このコンセプトに沿って「持続可能な都市モデルの構築」、「市民の健康をサポートする中核的な拠点の構成」、「駅近接の利便性を活かした都市型居住空間の形成」というようなことを目指して魅力あふれる美しいまちをつくっていただきたいと思います。また、まちづくりに広く世の中の方々の知恵をお借りたいという趣旨で「吹田操車場跡地まちづくりアイデアコンペ」を実施中です。ぜひ皆様からよいアイデアをお寄せいただきたいと考えております。

—当面のスケジュールはどうなりますか。
今夏の都市計画決定を受け、来年3月事業に着手します。

貨物ターミナル開業に合わせて、駅前広場が開放できるように基盤整備し、その後、岸辺駅周辺の土地から建物建設が可能になります。

—URとして吹田以外にはどんな都市再生事業に携わっていますか。

関西地区ではナレッジキャピタル(知的創造拠点)を核とした大阪北地区、阪大病院跡地に水都再生を目指した福島1丁目地区(はたるまち)、御堂筋の活性化リーディングプロジェクト淀屋橋地区などが代表的プロジェクトです。

—URとして今後どういったところに力を入れて都市再生事業を展開しようとお考えですか。

我々の都市再生事業は政策的意義が高く、かつ民間のみでは実施困難な事業に限定して実施することとされています。そういった中で事業展開として大きく三つの柱を考えています。

5月2日にまちびらきする「福島1丁目」地区(はたるまち)



一つは吹田のような大規模低未利用地を活用した都市構造の転換を図る事業、二つ目は密集地区の改善や防災公園事業など国民生活の安心安全にかかわる事業、そして三つ目は今国家的な課題となっている地方都市の中心市街地活性化の事業です。

公共団体や地元の方々への要請を受けて、このような事業にURとして全力を挙げて取り組んでいく覚悟ですので、よろしく願います。

制作：UR都市機構

吹田操車場跡地 まちづくりシンポジウム2008

2008(平成20)年4月22日 読売新聞 掲載



エコメディカルシティ構想

平成 20 年（2008 年）8 月

編集・発行 吹田市都市整備部 東部拠点整備室

〒564-8550 吹田市泉町 1-3-40

電話 06-6384-2614
